

工業外国語 (English for Computer Engineering)		5 年・通年・1 学修単位(β)・必修 情報工学科・担当 常勤教員全員
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 D-1 (70%), C-2 (30%)	〔JABEE 基準〕 (d-2a), (f)
〔講義の目的〕 技術者として必要な英語による科学・技術文献や各種資料を理解し、その要点を要領良く発表できる能力を身につける。		
<p>〔講義の概要〕 授業は、卒業研究の研究室単位で行い、以下に示す卒業研究関連分野の文献を輪講形式で講読する。指導は、各研究室の教員があたる。</p> <p>浅井：(1)J. A. Hansen, "PIC-et Radio: How to Send AX.25 UI Frames Using Inexpensive PIC Microprocessors", 17th ARRL and TAPR Digital Communications Conference Proceedings, pp.29-37, (1998). (2)John A. Hansen, "PIC-et Radio II: How to Receive AX.25 UI Frames Using Inexpensive PIC Microcontrollers", 19th ARRL and TAPR Digital Communications Conference Proceedings, pp.67-74, (2000). 他。</p> <p>山口 智 浩：(1)Why Multi-objective Reinforcement Learning? , European Workshop on Reinforcement Learning (2015), (2)Achieving Creative Behavior Using Curious Learning Agents, AAAI Spring Symposium: Creative Intelligent Systems'08, (2008)</p> <p>松尾：(1)M. Umeda, "Advances in Recognition Methods for Handwritten Kanji Characters", IEICE Trans. Inf.& Syst. (2)日本工業英語協会, "工業英検 4 級対策", 日本能率協会マネジメントセンター</p> <p>本間：S. Leffler et al., "The Design and Implementation of the 4.3BSD UNIX Operating System", Addison-Wesley Publishing.</p> <p>内田：Ian Sommerville, "Software Engineering", Addison-Wesley Publishing Co. .</p> <p>山口賢一：H. Fujiwara, "Logic Testing and Design for Testability", MIT press.</p> <p>松村：L. R. Rabiner, B. H .Juang, "An Introduction to Hidden Markov Models", IEEE ASSP Magazine, pp.4-16 (Jan.1986).</p> <p>岡村：J. Katz, Y. Lindell, "Introduction to Modern Cryptography, Second Edition," CRC Press.</p> <p>上野：研究テーマに沿った最新の海外論文を調査・精読する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>基本的な英文読解および英作文の知識が必要である。専門用語を始め、各自の研究テーマに関する基礎知識も必要である。また授業においては、文献内容に関する議論に積極的に参加することも重要である。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>各自の関連技術分野に関する基礎的な英文を正確に理解でき、要約できること。また自分の読んだ内容を要領良く発表できること。</p>		
<p>〔自己学習〕</p> <p>各研究室のテーマに沿った関連文献（英語で記述されたもの）を調査し、理解しておくこと。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>講読文献の内容の理解度と発表内容（70%）と議論への参加程度（30%）を総合して、各指導教員が評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 上記〔講義の概要〕欄に記載の文献を主として使用する。</p> <p>〔補助教材・参考書〕 必要に応じて適宜紹介する。</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>英語（一般科目）、専門基礎科目、卒業研究課題の関連科目</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	ガイダンス	授業の目的・進め方・英語技術文献講読の際の心構え等を説明	
第 2 週	輪講開始	各研究室単位で文献の講読・発表（以降第 30 週まで同じ）	
第 3 週			
第 4 週			
第 5 週			
第 6 週			
第 7 週			
第 8 週			
第 9 週			
第 10 週			
第 11 週			
第 12 週			
第 13 週			
第 14 週			
第 15 週			
前期期末試験は実施しない			
第 16 週			
第 17 週			
第 18 週			
第 19 週			
第 20 週			
第 21 週			
第 22 週			
第 23 週			
第 24 週			
第 25 週			
第 26 週			
第 27 週			
第 28 週			
第 29 週			
第 30 週			
学力補充期間（学年末試験は実施しない）			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）